

令和8年度浜松学院大学入学者選抜試験 B 日程【英語】出題趣旨

本学のアドミッション・ポリシーとして「コミュニケーション能力の向上に意欲を持ち、創造性豊かで行動力のある者」を受け入れ、入学後には「多様なコミュニケーション能力」を高めることをカリキュラム・ポリシーとして学生に促している。

それゆえ、英語の入学選抜試験においては、そうしたポリシーに基づいて、問題文には日常的な英語表現を用いている。入学前の学習で、それぞれの状況に応じた語形変化も含めて必要十分な語彙を習得できているか、さらには、構文、慣用表現といった英語話者の発想を適切に理解し、そこから話者の心情を読み取ることができるかを問う出題をしている。

問題Ⅰ

人称、時制、品詞、慣用表現等に関連した適切な単語を適切な語形で用いることが習得できているかを問う。

問題Ⅱ

文脈に応じた語形変化や、用いるべき品詞、慣用表現の理解を含めて、適切な単語の使用を習得できているかを問う。

問題Ⅲ

基本的な語彙、文法の知識を基に、日常表現が理解できるかを問う。

問題Ⅳ

会話の自然な流れを理解し、話者の心情が読み取れるかを問う。

問題Ⅴ

B 日程入試も、A 日程入試と同様に、本文の内容と設問の英文が一致しているかどうかを判断する正誤問題。本文と設問の英文が同じ意味であるかを判断する際には、英語の言い換え

(Paraphrasing) を理解する知識・スキルが重要となる。実際の英語では、同じ内容が異なる語彙や表現で示されることが多いため、英文を一語ずつ訳すだけでなく、表現が異なっても同じ意味であることを理解し、本文と設問に関連付けて判断する力が必要。加えて、本問題では、否定表現や数量表現によって、本文と設問の意味が変化していないかを見極める力も求められる。したがって、本問題は、語彙・文法・読解力を統合的に活用し、言い換えを通して意味を理解・判断する英語運用能力 (Paraphrasing competence) を評価する問題であると言える。

【学習のポイント】

A 日程入試と同様に、本文の語句がそのまま設問に使われるのではなく、同義語・反対語・要約表現に置き換えられている点に注意する必要がある。特に、設問に含まれる *not*、*no*、*many*、*some* などの語は、正誤判断に関わる重要な手がかりになるため、本文の内容と丁寧に照合することが大切。

【文章構成】

問題提起、具体例、学校の支援、まとめという流れが明確であり、読みやすい構成になっている。

問題Ⅵ

A 日程入試と同様に、近年の学習指導要領を反映した「対話を通したコミュニケーション重視型」の問題。本問題では、地域社会における高齢者支援をテーマに、学生と教授との対話を通して、実際のコミュニケーション場面で用いられる英語表現を理解する力を問う構成になっている。

【問題の特徴】

B 日程入試も、A 日程入試と同様に、対話文の流れを理解した上で、下線部を適切な日本語に訳す問題です。単語や文法を個別に訳すだけでなく、会話の流れや話し手の意図を踏まえ、自

然な日本語で表現する力が求められる。したがって、本問題は、語彙・文法・文脈理解を統合的に活用し、コミュニケーションの流れの中で英文を自然な日本語へ置き換える英語運用能力を評価する問題であるといえる。

【学習のポイント】

A 日程では、AI を活用した英語学習をテーマとして、対話全体の流れや話し手の意図を理解する力が求められました。本問題でも同様に、前後の文脈を踏まえて下線部を訳すことが重要。特に、gain people's trust（人々の信頼を得る）、knowing the local people well（地域の人々をよく知る）、start with small steps（小さなことから始める）など、英語らしい表現を日本語として自然に表現する力が求められる。また、指示語や省略された内容を補いながら訳すことも重要なポイントとなる。

【文章構成】

A 日程と同様に、教授と学生による Question-Answer（質問→応答）を基本とした対話で構成されている。問題提起、助言、具体例、励まし、まとめという流れが明確であり、対話の展開を追いやすい構成になっている。